RIPPLE SAILING CLUB
NO.152

月刊１９９５．１２．１４
RIPPLE

（発行）
リプル・セイリングクラブ
〒２３８－03
神奈川県横須賀市長井２－１１－１
TEL　0468－57－1711

初日ノ出クルージング

毎年恒例になっております”初日の出クルージング”の募集を行います。まだ薄暗い海に艇を出し、刻一刻と変わる東の空を眺めながら呑るあの一杯。
聞こえて来るものは、耳の側で鳴る風の音と、バウを切り削波の音だけのの幻想的な海上で、どでかい１９９６年の初日の出を拝みたい人は下記の要領で行いますので、連絡をお待ちしております。

日程	元旦
集合場所	深浦港
集合時間	06：00
出艇	06：30
日の出	06：49
解散	09：00

めたくちゃ寒いので
あったかい格好でね

今年も色々ありがとうございました。

又々、ご迷惑をおかけします。スイマセン

いやーっ、歳と言うか、あほと言うか、間抜けと言うか自分でも信じられないのですが、とにかく起きてしまったんです。
骨折が。
歩道から車道に足を踏み外して落ち、といっても高低差２０ｃｍ位な落差ですよ。
こて！。ばき！。ぎゃー！。
自分でも何が起こったのか分からなかったくらいです。
結果は、ひ骨骨折及びじん帯剥離。未だに信じられない。
でもって、１５日から２２日迄入院（手術が１８日）と成ってしまいました。土、日、水とバイトは確保致しましたが、それ以外の日はご迷惑をおかけ致しますがお許しを。
また、土、日、水以外でセイリングに見えられる人は、リプルのレンタル（ホッパーⅡ、Ｎｏ９８５３、船台に乗せて有ります。艤装品はクラブハウス入口右側に用意して有ります。）を使用していて下さい。
入口の門とかクラブハウスの鍵及びシャワー等は朝処理して行ってくれる人がおりますので、一応セイリングは出来ると思います。
また、そんなことで、初日の出クルージングの艇長は、数々の修羅場をくぐり抜けてきて、頭角も著しい増田氏にお願いして有ります。
当日は基本を知らない参加者も見える事と思いますので、３点保持等の基本を教えて上げて、助け合いながらクルージングをして下さい。

やんや、やんやのリプル忘年会

去る１２月２日恒例のリプル忘年会が行われました。
昔の東海道の最初の宿場町と言うこともあって、緩やかなカーブと両脇には”日本橋より２里”、なんて言う石塔が有ったり、宿場街の面影が随所に見られる商店街に本日の会場となる”金時”が有りました。
我々車組は、高速道路の混雑を考え、早めに長浜を後にしたのであるが、混雑なんて何処もなく、５時には会場に到着してしまい、時間つぶしに先ずは喉を潤そうとやっていると、本日の参加者１６名は三々五々集まりだし、徐々に宴会らしく成ってきたのである。
本日のメニューは日本式のカンパチ、マダイ、メジの刺身にカンブリの照り焼き、タラバの焼物から始まり、豪華鍋と続くのであるが、ハッシーの実家と言うこともあり”ちょっと無理をさせてしまったなー”と言う料理でした。
宴もたけなわになり、終了の９時頃には皆最高潮に成りハッシーの叔父さんである御主人に時間の延長を申し出をしたのであるが、快く引き受けてくれたのである。
それからが本日のクライマックスへと続くのである。
それまで、なかいさんを務めていたハッシーの叔母さんが、踊りの免許を持っている人で、何と我々に３曲も踊りを披露してくれたのである。
我々は座敷であったが、カウンターにいた一般のお客さんも乗りに乗り、拍手とかけ声に包まれ、おひねり何かも割箸にはさんでビールびんに立てられ、もうそれこそ大変な騒ぎと成ってしまったのである。
それからは乗りに乗ったリプルの面々は歯止めが効かないのである。
踊りの衣装なんかもロッカーにいっぱい有り、また小道具の陣がさ、カツラ、刀なんていう色々な小道具も揃っていて、早速ぶっつけ本番で娘さんと若だんさんの踊りを一緒にどうぞと言われてしまうのである。
女役は色白の風巻氏、若だんさんは増田氏。
風巻氏は紅まで引かれ、着物に帯、女もんのカツラを付け網傘を持った姿は娘さんそのもので、方や増田氏は流しの着物に青白く光ったかつらを被り、脇差し、陣傘と２人の気持ちは正に江戸時代に成っていたのである。
師匠の踊りに合わせアドリブで躍る２人は、皆を、盛り上げるだけ盛り上げてくれたのである。（その時の写真が１枚リプルに有ります）
そんな、やんややんやの中で忘年会の終了したのは、とっくに１０時を回ってしまったのでした。
まだまだ続きそうな気配の中、来年も海で合いましょう。と言う意志統一の中、リプル忘年会は宇藤氏の基、関東一本締めで終了したのでした。

リプル鍋文化大革命　ヒ～～ッ!!

夏も過ぎ、秋に成ると決って行われるリプルの行事（？）が有ります。折角海に来たのにうねりが有ったり、思わぬ強風でセイリングが出来ない時に、決って誰ともなく出て来るものなのですが、それは名物”リプル鍋”なのです。
かつてのリプル鍋はシーフード系でながねぎ、白滝が無くぼんず、胡麻だれで食し、最後はうどんで決まりのパターンでしたが、時代と共に伝統的なリプル鍋が変遷を重ね、今では私の嫌いな、ながねぎ、白滝どっさりの普通の鍋に成ってしまっていたのですが、先日の鍋パーティーでは”リプル鍋文化大革命”とでも言いましょうか、初めての鍋パティーが行われました。
当日は天候もよく、久々のヨット日和なのであるが、三々五々長浜に集まって来る会員さん同志は、お互いに積もる話でクラブハウスで話している内に、皆のお尻に根っこが生えてしまい、誰ともなく”鍋”の話になってしまい、手慣れた会員さん達は、買い出しなりセットなりをどんどん進め、昼頃には既に鍋が出来上がっていたのである。
１杯目の鍋が終了し、２杯目に移る時に文化大革命が起こったのである。
鍋にうるさそうなＯ氏がなんとキムチ鍋を造りだしたのである。
キムチのスープをどぼどぼと入れ、”素材の味が・・・、伝統が・・・”と言うＳ氏の意見なんか何処吹く風で、折角だからこれも入れちゃおと、更にあの例のキムチをもばさばさと入れるではないか。
リプル鍋の伝統なんて有ったもんではない、鍋のスープは赤銅色に変色し沸き上がる鍋は地獄の釜の様になり、見るからに辛そーという感じに出来上がったので有る。しかし、皆箸を付けるのに躊躇している様なのであるが、”辛いけどまーまーじゃない”の一言で、皆は試食変わりに先ずは１杯と食べ始めたのである。
そして、”うん、これはこれで”とか、”そんなに辛くはないね”なんて言いながら、大きな鍋に並々と有ったきむち鍋は空っぽになってしまい、仕上げのうどんも無事に皆の胃袋に納まったのである。
この所急速に変化を遂げるリプル鍋、これも時代の変遷とでも言いましょうか。この先どんな風に変遷して行くのでしょうか？。